

	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所	名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	<h1>セコイア通信</h1>	編集人	佐々木康寿・中川 優
		発行人	安井 孝
		印刷所	株式会社 クイックス

節目の年

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 川 北 一 人



名古屋大学農学部同窓会員の皆様には、日頃から大学院生命農学研究科と農学部の教育研究活動にご理解とご支援を賜り、お礼申し上げます。またこの春に卒業・修了を迎えた皆様に心よりお祝い申し上げます。

本年は生命農学研究科にとって節目の年となります。1997年の大学院重点化時の「横断包括型の体制」から、この4月に「学術研究領域に基づく体制」に組織再編を行い、学生・受験生・卒業生・社会一般の皆さんが理解しやすい専攻の構成と名称にします。「森林・環境資源科学専攻」「植物生産科学専攻」「動物科学専攻」「応用生命科学専攻」の4専攻から成り、学部の「生物環境科学科」が「森林・環境資源科学専攻」に、「資源生物科学科」が「植物生産科学専攻」と「動物科学専攻」に、「応用生命科学科」が「応用生命科学専攻」に対応します。学術研究や大学教育に関する社会的要請は刻々と変化しており、本研究科においても、将来展望のもとに教育研究の目標を定め、研究科の特色と存在感を明確にすることが重要となっています。

名古屋大学が位置する中部地域は、世界を代表するものづくり産業の集積地であるばかりでなく農業においても主要な生産地域であり、食品加工産業も盛んです。本研究科は、飛躍的に発展したライフサイエンスやバイオテクノロジーを基軸として、研究拠点大学として「食・環境・健康」の領域での先導的な研究を実施しています。基礎研究を重視して幅広い農学の発展をリードするとともに、農学の使命である社会実装を視野に入れた研究展開と産学官連携を図っていきます。また、農学はグローバルな視点とローカルな視点を両立させ、その上で価値目標を定め、問題の解決を図る学問分野です。国際化・国際協働は生命農学研究科の必然的使命であり、国際展開、特にアジア展開において特色を持つ名古屋大学にあって、本研究科はその一翼を担っています。

2004年に国立大学が法人化されて以来、6年ごとに大学が目標と計画を立て、国が評価する仕組みとなっています。2016年からは第三期中期目標・計画期間となり、名古屋大学でも松尾清一総長が「名古屋大学松尾イニ

シアティブ NU MIRAI 2020」を公表し、世界トップレベルの教育研究活動、産学官連携によるイノベーション

創出、キャンパスの国際化とアジア展開、自律的なマネジメント改革などにより、本学を世界屈指の研究大学に成長させることを宣言し、10年後のビジョンとそれを実現するための方略を計画しています。さらに、2016年の国立大学法人運営費交付金における重点支援枠の設置や、2017年の国立大学法人法改正による指定国立大学法人制度の創設などを通して、大学の位置づけや役割分担が国によって明確に定められ、今日の「大学改革」のもとで、国公立を問わず大学の特色や、学部・研究科の存在意義を示すことが強く求められています。

これらを背景として、大学と企業あるいは大学と研究機関との間での共同研究や国際協働、大学院への社会人学生や留学生の受入、学生のインターンシップなどを推進していく必要があります。そのためには様々なネットワーク形成が不可欠です。中でも同窓会は大切なプラットフォームであり、研究科・学部と同窓会とが一体となり、同窓生が学部・研究科を身近な存在として活用していただきたいと思っています。学部・研究科の活動状況や研究のシーズについて情報発信するとともに、同窓生の活躍を把握し、同窓生間や同窓生と在学生の間の情報交換と交流の場を提供していきます。

2021年には農学部創立70周年を迎えようとしています。この間、本学部・研究科を巣立った数多く卒業生が多方面で活躍されています。卒業生の皆様が名古屋大学を卒業・修了したことを誇りに思い、支援いただけるように学部・研究科の発展に努めて参ります。

最後にお願ひです。このたび本研究科は、名古屋大学特定基金として「教育研究基金」を新たに設置し、農学部・生命農学研究科の在学生の学業を支援する各種奨学金制度を設けることといたしました。次世代を育成するという視点から是非ともご理解とご協力をお願いいたします。

名古屋大学農学部同窓会長あいさつ

安井 孝 (昭和47年林学卒)



名古屋大学農学部同窓会会員の皆様におかれましては、平素より大学院生命農学研究科と農学部の活動に対して深いご理解と多大なご支援を頂き、厚く感謝申し上げます。

そして、この3月に学部・研究科を卒業・終了される方々にお祝い申し上げるとともに、正会員として入会を歓迎いたします。また、学部・研究科で学び・過ごした日々および出合いを大切に、同窓の絆を熟成させていくことをお願いいたします。

私は、旧来の学科ローテーションルールで平成29・30年度同窓会の会長を務めさせて頂くことになりました安井です、どうぞよろしくお願い致します。

さて、私が教養部に入学した昭和43年には国内各地で起きた大学紛争の嵐が名大にも影響し始め、翌44年には学生による教養部の封鎖が7ヶ月近く続き、授業は休講、県警機動隊の封鎖解除による紛争の終結等希少な体験をしましたが、45年からの学部では、治山工学教室にお世話になり、今現在に繋がる充実した学生生活を送ることが出来ました。

林学への入学動機は、34年9月26日名古屋市南区で遭遇した伊勢湾台風による高潮・暴風・大雨等他に類を見ない風水害から九死に一生を得た自己体験から「自然環境防災」の仕事に関わりたいとの思いがあり、当時名コンビであった河田五郎、片岡順両教授を始め多くの先生方に何かと森林と環境についてご教授いただき、47年卒業、森林に関する技術者としてスタートすることが出来ました。退職年齢を過ぎたといわれる

現在でも「森林防災一筋」現役で活動しておりますが、これが出来るのも「同窓のよしみ」から生まれた大学や同窓生との思わぬ繋がりに支え続けられた結果と大変感謝しております。

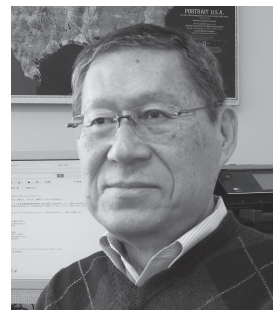
「同窓の意識」は新たな人間関係を生み出すきっかけになり、この橋渡し役としてあるのが同窓会です。現在、会報等により農学部の昨今をお知らせするとともに、総会等における出合いの場の提供や、会員録の定期的な編纂などを行い皆様に活用頂いておりますが、それらの活動に加え、大学が次世代の人材をしっかり育成していくための支援組織となるよう同窓会の体制強化が求められ始めております。

このため、今まで以上に会活動を活発化し、会員の皆様が積極的に参加できるような同窓会となるよう、評議員制度の実質化を図り同窓生間のネットワークを形成し卒業生と学生との交流や産学連携のサポートを強化していくことや、ホームページ等で情報交流の充実を図る、また、会費納入の安定化を図るなどの活動に取り組んでいるところです。

同窓会活性化特認理事として残って頂いた服部束穂前会長、福島和彦副会長を始め役員の方のご指導とご協力を得ながら、学外の経験を活かし、伝統ある同窓会の発展に尽力致しますので、今後の同窓会の活動にご期待くださると共に、会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

定年

生物圏資源学専攻 (森林資源利用学) 近藤 稔



定年という言葉を知ると必ず思い出すことがあります。それは、残念ながら昨年末に亡くなられた恩師の堀先生が言われたとりとめない言葉です。ある日稲武演習林での実験を終えて大学へ帰る車の中、先生が「いやー、近藤君驚いちゃったよ。十年切っちゃったよ。」と唐突に話しかけられたことであります。いう

までもなく「十年切った」とは「定年退職まであと十年」という意味であります。

当時の教員の定年は63歳だったので今ならとっくに私は退職していることとなります。それにしても十年も前から定年のことを考えているとは、どのような心境

でそのようなことを言われたのかは、その言葉以外覚えていなので推して知る由もありません。今の私は65の定年まであと2か月を残す定年直前にもかかわらず、定年をあまりピンと感じていませんので堀先生がどのような心境でそのようなことを言われたのかいまだにわからないままであります。

ところで、私は3年ほど回り道をして名大に入学したので大学での同期の先生方より2、3年早く退職することになります。当時の教養部から農学部に進学して林学科森林利用学の研究室に所属、大学院に進学して後期課程の途中で助手に採用され現在に至ります。あしかけ42年農学部でお世話になっていることになります。研究室に来た頃は4階にある研究室の北側の窓から星が丘のビルや御岳山、中央アルプスを見ながら研究していたのですが、今では研究棟の屋上の高さまで成長したアベマキなどの高木の樹木に遮られ落葉した時でないと見えなくなりました。また、東山スカイタワーも建設途中の様子がよく見えて少しずつ高くなって行くのを窓越しに眺めていたのを覚えています。今では成長したバンクスマツやデーダマツ（大きなまつぼっくりができるやつです）にさえぎられて見えなくなりました。

私の研究テーマは安全で環境にやさしい効率的な木材収穫技術と作業システムの確立で機械的・土木的そ

れと地理的分野と関係が深く、農学分野からはかなり異端の分野です。森林での作業は条件が同じであることがほとんどなく予想が難しいため非常に危険が伴うことが多く、日本はおろかアメリカでも最も危険な職業は森林伐採搬出といわれています。実際、現場での実験・調査では今の若人がいう“ヤバイ”を連発する“ヤバイヤバイヤバイ…”という経験を何度かしました。私も一昨年実習で指を機械に挟まれてつぶしてしまい演習林をはじめ関係者の皆様にはご迷惑をかけたしました。定年を控え忸怩たる思いです。

最後に、卒業式の日には農学部同総会主催の行事として卒業生の皆さんに樽酒と榊がふるまわれますが、私が同総会の役員をしていた時の会長であった木村志郎先生の発案で始まったものと記憶しています。農学部の卒業生は他大学・他学部と比べて同窓生意識が希薄でそれでは将来的によくないということで何とか同総会を盛り上げようということになりました。とかく若いときは自分の力で物事ができたと考えますが、実はその裏の目に見えないところで先輩方がなされたことがもたれていることがあります。研究も同じです。先人の成果の上に成り立っているのです。同総会は先輩と後輩という人と人のつながりを作る役目を担っていることを卒業生の皆さんが理解してご協力してくださることを期待しています。

長い間、大変お世話になりました。

生物圏資源学専攻（生物材料工学） 佐々木康寿



1982年3月大変幸運にも助手に採用していただいた後、結局36年間も長居をさせていただきました。この間、同窓の皆様をはじめ諸先輩・同僚の方々、また技術・事務職員の皆様に支えられ教育研究に携わらせていただきましたことを深く感謝申し上げます。優秀な後輩にも恵まれ、愛すべき学生諸君とともに木材・木質材料の構造利用における力学的耐久性、木材・木質構造の力学挙動解析、木質による都市環境デザインなど、環境と調和する持続可能な社会づくりに向けた木材のマテリアル利用に関する研究に関わらせていただき、幸せな瞬間を何度か感じさせていただくことができましたことを心から感謝しております。

さて、木材は太古の昔より土や石と共に人類が使ってきた天然の材料で、特定の項目に対して飛び抜けた

性能を示すようなことはありませんが使用環境さえ整えば百年単位の長期使用に耐えることは、多くの実例が証明している通りです。したがって、使用期間が長期に及ぶと材料の残存強度・耐久性発現機構の解明は重要な課題となり、木材に限らず他の材料でも未解明のテーマです。このような中で、研究室で開発した構造部材の残存力学性能に関する非破壊評価手法は、国内に多く現存する歴史的建造物の修理時に度々活用される貴重な機会に恵まれ、名城天守復元プロジェクトにも関わらせていただいております。名古屋大学の素晴らしい環境で研究させていただいた成果を活かすことができればと思っております。このプロジェクトで使用を予定しているヒノキやアカマツなどの木材は都

心の一街区（約1ha）に、構法にも依りますがおよそ8階建の木造ビルを造ることができるほどの量に相当します。わが国の伝統的構法で復元しますので大断面材の見た目だけでなく強度性能を含む材質を慎重に吟味する必要があります。基本的には国産の良質大径材が対象となりますが、森林資源の現状は量的には豊富であるにもかかわらず良質大径木は極めて限られており、必要としているのも名城だけではありません。このようなことから、材料の評価選別に関して現代の木材工学に載せることで必要な性能を有する適材を見つけ出

し、全材のカルテを整えることで竣工後のメンテナンスや数百年後の半解体修理に携わる技術者に有用となる資料を残したいと考えています。復元については様々な世論がありますが、幸運にも与えていただいたこのプロジェクトに携わる以上は後世の方々に文化的な価値とともに技術的・科学的な価値をも認めていただき、幸福感をもたらすことができますよう関係者一同で全力を尽くしたいと思っております。引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。長い間、お世話になり本当に有り難うございました。

退職を迎えて

生物圏資源学専攻（生物システム工学） 横地 秀行



農学部に入學、博士1年のときに、教員に採用され、今年で40年目になり、退職します。学科は林産学科、応用生物科学科、生物環境科学科とかわり、研究室名は、木材工業機械学、生物材料機械学、生物システム工学とかわりました。

ここでは、農学部での研究、教育のなかで、ものづくり、計測を主体にかきます。修士課程のとき、前任者の教員から、研究とは別に、オペアンプ709から構成されるあらかじの差動増幅器の回路設計、微分回路と比較器と電卓を組み合わせた累積砥粒高さ分布測定機器設計を手伝い、回路設計のノウハウをおしえてもらい、前任の先生に感謝しています。林産学科では、木材の精密機械加工で、正面フライス削り、周刃フライス削り、丸のこ切削、帯のこ切削を行ってきました。学生のころからジャズ好きで、教員に採用されてから、サクソ（アメセル）、シンセサイザなど購入し、オルガン教室に通うなど楽しんでいました。シンセサイザは関数発信器、振幅制御、波形制御など電気の仕組みがよく理解できる道具でした。大学の入学希望は工学部でしたので、音、振動、電気など農学より工学的なところが好きでした。木材研究のなかで、国内外で、丸のこの騒音、振動問題は重要な研究対象になって、丸のこの空転時の騒音、のこ歯後方に発生するカルマン渦列、ローラテンショニング（腰入れ）は上司の研究テーマになっていました。空転騒音の原因は、流速に関係する空気渦列の発生周波数に起因する。高速フーリエ計算するFFTアナライザを初期のパソコンPC9801の GPIB で接続、モータ回転数制御の周

波数インバータを8255によるI/O、DAコンバータで制御し、全自動の振動評価ができた。丸のこの節円数、節直径数からなる振動モードを可視化するため、発信器、電磁石、パワーアンプ（自作オーディオのアンプ、ラックスキット）でクラドニ図形出力、FFTによりノイズジェネレータ（実作ホワイトノイズ回路）による複数モード同時取得した。帯のこの振動モードには曲げモードとねじりモードがある。これらを分離抽出するため、オペアンプ加算回路により曲げモードを、オペアンプ減算回路によりねじりモードを特定できた。多数歯工具の自励振動は、歯の形状、間隔が正確に揃っているほど、振動の正弦波振動数に同期する正弦波振動数の切削力をうみだす。のこ歯の間隔を不等間隔にして、正弦波をみだして、振動抑制に成功した。このことは、自然の生物、環境などは形態、物性、運動性など不揃いになっていることを意味する。

応用生物科学科になって、植物工場学会（現、生物環境工学会）にはいり、植物の生体電位挙動の研究をおこなった。心電図などの生体電位計測用の計装用差動オペアンプ（数万円）をもとに自作し、植物の根、茎、葉面の各部電位を計測した。暗期と明期、光の波長、環境温度などに対する電位差応答を調べた。その後、温度、湿度、CO₂濃度自動計測、赤外線画像撮影装置、湿度換気装置付きデシケータ内でホウレンソウ、コマツナなどの葉物野菜の植物工場生産の研究をしています。

平成30年度名古屋大学農学部同窓会、総会、講演会、懇親会のご案内

平成30年度名古屋大学農学部同窓会、総会、講演会、懇親会を下記の日程で開催いたします。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。懇親会、講演会のみ参加も歓迎いたします。

○期 日：平成30年6月9日（土）＊名大祭期間中＊

○総 会

時間：午後2時～3時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○講演会

理化学研究所 バイオリソースセンター 実験動物開発室 室長

吉木 淳 先生 第31回（昭和60年3月）農学部畜産学科卒業

『実験動物マウス：高次生命機能の解明と疾患克服のためのモデル生物』

マウスは近交系、ゲノム情報、ゲノム改変技術の開発・整備ならびに疾患研究の膨大な知見の蓄積等、科学的な利点に加え、時間・コストの面でも優れた哺乳類モデル生物である。特に、個体レベルの研究が必要である脳機能や運動機能、免疫系といった高次生命機能の研究や癌・認知症・生活習慣病等の疾患表現型の解析・評価には、最適である。理化学研究所バイオリソースセンター・実験動物開発室では、我が国の研究者が開発したマウス系統の収集、実験研究の再現性の確保のため厳格な品質管理、保存、提供を実施している。利用者は、国内外累計1,200機関に及び、提供したマウスを用いた750編超の成果論文の発表に貢献している。今後、超高齢社会や個別化医療に向けたニーズに応えて、高次生命機能の解明ならびに疾患克服の研究・開発に必要な実験動物マウスの整備が求められている。

時間：午後3時～4時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○懇親会

時間：午後4時30分～6時30分

場所：名古屋大学内“花の木”ミーティングルーム

会費：1,000円

同窓会を開きませんか!?

農学部同窓会総会を機に、久しぶりに農学部に集まって同窓会を開催しませんか？

農学部同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。是非、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

農学部第14回卒業生および修士第12回卒業生の卒業50周年記念祝賀会の案内

農学部第14回卒業生および修士第12回修了生の50周年記念祝賀会は、平成30年6月9日（土）に開催する予定です。懐かしい先生方にもご参加いただけるかと思いますので、万障お繰り合わせの上ご出席ください。後日祝賀会へのご招待状を送付させていただきます。祝賀会、講演会、懇親会に関する情報は、農学部同窓会ホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。

卒業生の言葉

名古屋大学での4年間

生物環境科学科 森林化学研究分野 戸田 康介

月日が経つのはとても早いもので、入学してから4年が過ぎ、卒業を迎えようとしています。4年間で振り返ってみると部活動、研究、アルバイトなどに取り組み視野を広げることができました。決して多くのことに取り組んだとは言えませんが、初めて経験することが多く濃密な4年間だったように思います。

その中でも体育会水泳部での経験が一番印象に残っています。高校まではスイミングクラブに通って毎日練習をしていました。クラブでは練習メニューの作成、試合の手配などを行ってくれるコーチがいます。一方、大学ではすべて自分たちでこれらを行う必要があります。そして、得られる結果はすべて自分たちの責任です。個人競技であるため、個人の實力によるところが大きいのは事実ですが、チームとしての一体感、協力、戦略などの重要性をより強く感じました。チームとして目標を達成するためには自分に何ができるか、良い影響を与えるためには何をすべきかを優先して考えることができるようになりました。

また4年生になると研究室配属が行われ、3年生までとは大きく環境が変わりました。研究室では実験テーマに対して積極的に考え行動していく必要があります。最初の頃は上手く実験できないことが多くありましたが、支えて下さる周囲の方々のおかげで、少しずつですが成長していくことができました。大学院での2年間では、より成長できるように日々精進したいと思います。部活動や研究室での貴重な経験は日々の生活や考え方にも良い影響をもたらしています。目標を達成するために、物事に優先順位をつけて、粘り強く取り組むことができるようになりました。

最後になりましたが、多くの方々のおかげで充実した大学生活を送ることができました。研究室で懇切丁寧にご指導いただいた先生方、先輩方に深く感謝申し上げます。そして不慣れな土地での生活を陰ながら誰よりも支えてくれた家族に感謝いたします。



卒業に際して

資源生物科学科 害虫制御学研究分野 村松 美幸

気付けば大学生生活も終わりに近づいていますが、この4年間は貴重な経験の連続でした。

大学の講義では、動物・植物・経済学など農に関する幅広い知識を得る中で、自分の興味・関心を追求することができました。特に3年次の海外実地研修は視野を広げる体験となりました。この研修は、タイ・カンボジア・日本の3カ国の学生が複数のテーマに分かれて農家や農業に関わる機関を現地訪問し、その結果を英語でプレゼンテーションするというプログラムになっています。他国の学生との英語を使った意思疎通の難しさを感じましたが、プレゼンテーションの構成を議論するうちに打ち解け、発表後は達成感を互いに分かち合うことができました。非常に充実した研修でした。4年次に研究室に配属されてからは、自らの興味をさらに深く掘り下げて実験する日々でした。うまくいかない時も多々ありましたが、先生や先輩方の助けで実験を進めることができました。

学業以外にも様々な経験をしました。部活動もその1つです。大学では茶道部に所属し、年に2回主催するお茶会に向けて稽古に励みました。私自身茶道の経験はありませんでしたが、同期に教えてもらいながら作法を学びました。作法を学んだ以上に、部活で大切な友人を得たことを嬉しく思います。私の同期はほぼ全員が下宿生であり、突発的に集まって遊んだ日々はかけがえのない思い出となりました。生活費を補うために始めた接客のアルバイトからも多くのことを学びました。お金を稼ぐことの大変さやそれに伴う責任の大きさを痛感しました。バイト先では相談に乗ってくれる店長と一緒に働くおもしろいメンバーと出会い、忙しいながらもやりがいを感じています。

このように私の大学生活は多くの人との出会いの上で成り立っていると感じます。支えて下さった方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。



卒業にあたって

応用生命科学科 植物細胞機能研究分野 袴田 凧沙

入試を終え名古屋大学農学部に入学したのがこの間のように感じられるほど、大学生活の4年間はあっという間のものでした。勉強や研究室生活の他、初めての一人暮らしやアルバイト、サークル等様々な経験をすることができました。その中の2つに特に大きな影響を受けたと思います。

1つ目はサークル活動です。私は合唱サークルに所属しており、年1回の定期演奏会を大きな目標とし、その他に卒業式や入学式、近隣の中学への訪問演奏などに向けて練習していました。様々な行事の運営に携わったり方針について話し合ったりと、合唱の技術だけでなく今後生きるものを得られたと感じています。また、勉強やアルバイトなどと両立しながら4年間続けてこられたことは自信となると思います。

2つ目は研究室です。3年生までの授業や実験実習は、既知の事実を何となく学ぶだけで、受け身のまま通り過ぎてしまったように思います。しかし4年生になり研究室に所属してから、未知の事を調べていく楽しさや難しさを感じました。ただ受け身では何も始まらないことや自分の時間が減ったことなどに対し、しんどい、つらい、と思うことも多々あります。しかし、ここまで物事に一生懸命になれる機会はそう多くはないので、貴重な機会を大切にしていきたいと思います。

私は4月から大学院に進学します。先ほどは、ただ受け身では何も始まらないと書きましたが、まだまだ自分から動くことはできていないと思います。研究室には後輩も入ってきて、ただ教えてもらう立場から自分が教える立場になることもあるかと思います。今まで以上に大変な事は増えてくると思いますが、その分社会に活かせることを身に着けられると信じて、より一層一生懸命頑張っていきたいです。

最後に、私が4年間ここまで過ごしてきたのは、学部やサークルの友人、研究室の先生方や先輩方、家族のおかげです。ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。



学生生活を振り返って

応用分子生命化学専攻 生体高分子学研究分野 武藤 菜摘

入学したときには果てしなく続くように感じた学生生活も、ついに終わりを迎えようとしています。思い返せば、やりたいこと、やるべきことに追われながらも充実した6年間でした。農学部棟への坂道を上るのはあと何回かと数えつつ、早くも名残惜しい思いです。

基礎を学んだ初めの3年間は、専門分野はもちろんのこと、幅広い学問分野に触れることのできる貴重な機会でした。時折白衣を着た上級生とすれ違い、研究室生活への憧れと期待を膨らませたことを思い出します。3年次の実験実習では、有機化学、微生物、植物など応用生命化学科が扱う分野の幅広さを感じるとともに、自分の知識不足を痛感する毎日でした。私たちの疑問や不慣れなレポートにも、親切に対応くださった先輩方、先生方には感謝の念に堪えません。

研究室に配属されてからは、覚えるべきことはさらに増え、自分で考える力が一層求められるようになりました。自由度が高まる一方で、自分の研究を進めるのも、気の緩みから時間を無駄にするのも自分次第。研究室生活も終わりに近づいた今、先生がよく仰っていた「自律」という言葉の意味するところ、またそれが自分たちにとって如何に大切なものであったかを実感しています。

私は入学以前から、科学に対して漠然とした憧れを抱いていました。研究室での生活を通して、研究の場では学年や立場に関係なく、学んだ者同士が対等に議論できるという点にやりがいを感じるとともに、今後とも科学に関わり続けたいという思いが一層強くなりました。そして念願が叶い、卒業後は研究開発の仕事に携わることになりました。再び勉強と研究の毎日が始まりますが、大学で得た経験と、もっと学びたいという強い思いを胸に励みたいと思います。

最後になりましたが、学生生活を共に過ごした同級生、研究室の皆様、お世話になった先生方に心から感謝するとともに、このご縁を生涯大切にしたいと思います。



平成29年度総会、講演会、懇親会の報告

平成29年6月10日(土)、農学部第3講義室において総会を行いました。平成28年度の事業・決算報告を行った後、平成29年度役員を選出し、平成29年度事業計画・予算を審議しました。総会終了後、松浦純生氏〔京都大学防災研究所 地盤災害研究部門 傾斜地保全研究分

野 教授、第25回(昭和54年3月)農学部林学科卒業〕による講演会「ポセイドン号沈没の謎に迫る」を開催しました。講演終了後、「レストラン花の木」にて懇親会を開催し、親睦を深めました。

農学部第13回卒業生および修士第11回卒業生の卒業50周年記念祝賀会の報告

平成29年6月10日(土)名古屋大学農学部大会議室において、農学部談話会との共催により農学部第13回卒業生および修士第11回修了生の卒業50周年祝賀会を開催いたしました。11名の卒業生の皆様をはじめ、談話会会員、現職員、および同窓会役員合計40名の出席で盛大に行われました。祝賀会では、同窓会会長 服部東穂教授、ならびに生命農学研究科長・農学部長 川北一人教授よりご挨拶をいただきました。続いて農

学部談話会 服部重昭先生の乾杯のご発声の後、昼食、歓談となりました。出席いただいた方々から自己紹介と近況についてのご報告をいただき、会は和やかな雰囲気の中進行しました。また、互いの旧交を温めておられました。昼食後は、生命農学研究科 佐々木康寿教授より、「都市の木質化ー森林と都市の持続的調和をめざしてー」と題したご講演をいただきました。

平成29年度農学部学術交流基金助成事業の採択者一覧

(農学部学術交流基金助成は農学部創立50周年記念事業の一環として行われています。)

・谷口光隆(研究集会参加) ・森 雅典(海外派遣支援)

人事異動(平成29年1月～12月まで)

日付	氏名	異動内容	職名	所属
生命農学研究科				
H29.1.1	兒島 孝明	昇格	講師	大学院生命農学研究科生命技術科学専攻生物機能技術科学講座
H29.1.1	加藤 裕美	昇格	施設系係長	農学部・生命農学研究科管理係
H29.3.31	生源寺 眞一	定年退職	教授	大学院生命農学研究科生命技術科学専攻生命技術社会システム学講座
H29.3.31	大澤 莉紗	退職	事務職員	農学部・生命農学研究科研究支援係
H29.3.31	北村 繁幸	定年退職	技術専門員	全学技術センター
H29.3.31	加藤 元昭	定年退職	営繕手	農学部・生命農学研究科管理係
H29.4.1	北 将樹	採用	教授	大学院生命農学研究科応用分子生命科学専攻バイオモデリング講座
H29.4.1	北浦 靖之	昇格	講師	大学院生命農学研究科応用分子生命科学専攻応用生命化学講座
H29.4.1	廣田 雄介	配置換	係長	農学部・生命農学研究科人事係
H29.4.1	佐藤 由布子	昇格	主任	農学部・生命農学研究科用度係
H29.4.1	濱本 和	配置換	事務職員	農学部・生命農学研究科教務学生係
H29.4.1	安藤 洋	昇格	技術専門員	全学技術センター
H29.5.1	安立 昌篤	昇格	講師	大学院生命農学研究科応用分子生命科学専攻生命機能化学講座
H29.7.1	青木 弾	昇格	講師	大学院生命農学研究科生物圏資源学専攻生物材料科学講座
H29.7.1	富田 佳史	配置換	事務職員	農学部・生命農学研究科経理係
H29.7.1	宮崎 禎仁	配置換	係長	農学部・生命農学研究科用度係
H29.7.1	石田 康博	配置換	図書系係長	農学部・生命農学研究科図書係(現・附属図書館東山地区図書課農学図書係)
H29.9.1	松尾 美幸	昇格	講師	大学院生命農学研究科生物圏資源学専攻生物材料科学講座
H29.10.16	久野 仁美	配置換	主任	農学部・生命農学研究科人事係
生物センター なし 農国センター なし				

農学部同窓会ホームページ案内

農学部同窓会の活動や、農学部研究室の変遷などに関する情報は、農学部同窓会ホームページ (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) に掲載中です。住所変更の案内もございます。ぜひご覧ください。ホームページに対するご意見、ご要望等ございましたらぜひお寄せください。（担当：一柳 ichiyana@agr.nagoya-u.ac.jp）

平成28年度事業報告

- 1) 卒業50周年記念祝賀会の開催
平成28年6月4日、名古屋大学農学部大会議室において第12回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を農学部談話会と共同で開催した。
- 2) 総会、講演会、懇親会の開催
平成28年6月4日、名古屋大学農学部において総会を行った。
総会終了後、井ノ口 馨氏〔富山大学大学院医学薬学研究部（医学）教授、第24回（昭和53年3月）農学部農芸化学科卒業〕による講演「記憶をコントロールする」を開催した。講演会終了後、名古屋大学「レストラン花の木」にて懇親会を開催した。
- 3) 卒業・修了祝賀会の開催
平成29年3月27日に第7講義室にて卒業・修了祝賀会を開催した。
- 4) 会報「セコイア通信」の発行
平成29年3月に発行した。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページの充実をはかると共に、リニューアルにとりかかった。
- 6) 同窓会名簿の管理
全学同窓会名簿システムと連携し、同窓会名簿データの更新を行った。また要請に基づき名簿情報の提供を行った。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力した。
- 8) 新規事業の検討
農学部同窓会 OB 会および学生会員同士の交流を活性化するための新規事業について検討した。

平成29年度事業計画案

- 1) 卒業50周年記念祝賀会の開催
平成29年6月10日、第13回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を開催する。
- 2) 総会、講演会、懇親会の開催
平成29年6月10日、名古屋大学農学部において総会を行う。
総会終了後、松浦純生氏〔京都大学防災研究所地盤災害研究部門 傾斜地保全研究分野 教授、第25回（昭和54年3月）農学部林学科卒業〕による講演会「ポセイドン号沈没の謎に迫る」を開催する。講演会終了後、名古屋大学「レストラン花の木」にて懇親会を開催する。
- 3) 卒業・修了祝賀会の開催
平成30年3月26日に第7講義室にて卒業・修了祝賀会を開催する。
- 4) 会報「セコイア通信」の発行
平成30年3月に発行する。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページのリニューアルを行い、充実をはかる。
- 6) 同窓会名簿の管理
全学同窓会名簿システムと連携し、同窓会名簿データの更新を行った。また要請に基づき名簿情報の提供を行う。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力する。
- 8) 新規事業の検討
農学部同窓会 OB 会および学生会員同士の交流を活性化するため、新規事業の実施を目指す。
- 9) 評議員制度の実質化
同窓会会員の交流の場を提供し、新たな会員ネットワーク拡大と活動活発化の機会を増やすため、評議員制度の実質化を図る。

事務局だより

事務局では農学部同窓会会員録データの改訂を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) までご連絡ください。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお応えしてまいりたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

名古屋大学農学部同窓会 平成28年度決算

平成28年4月1日～平成29年3月31日

【収入の部】

費目	決算(円)	細目	金額(円)	備考
会費等	2,076,000	永久会費	1,260,000	63名
		一般会費	220,000	44名
		寄付金	461,000	87名
		広告掲載費	135,000	9件
第12回卒業50周年祝賀会費	58,000		58,000	29名
平成28年度総会懇親会費	27,000		27,000	27名
前年度繰越金	22,072,400			
合計	24,233,400			
(実質収入 2,161,000)				

【支出の部】

費目	決算(円)	細目	金額(円)	備考
会報発行費	1,358,473	会報印刷・発送	1,356,745	9700部(8500部発送)
		振込手数料	1,728	2件
平成28年度総会	210,270	講師講演料	30,000	
		講師交通費	22,000	
		役員交通費	41,000	3名
		懇親会費	117,270	
第12回卒業50周年祝賀会	119,615	飲食代	86,000	
		事務費	33,615	案内状印刷・発送
卒業・修了祝賀会	326,632	飲食代	131,184	
		記念品代	193,720	
		振込手数料	1,728	2件
役員報酬	132,000	役員報酬	132,000	11名×12,000円
支部支援金	90,576	関東支部	60,000	
		関西支部	30,000	
		振込手数料	576	2件
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	21,630			
その他諸費用	40,003	交通費	6,000	学外理事理事会および支部総会出席
		課税納付	17,003	役員報酬・講演料・アルバイト代
		談話会出席費	12,000	3名×2回
		事務費	5,000	
次年度繰越金	21,684,201			
合計	24,233,400			
(実質支出 2,549,199)				

名古屋大学農学部同窓会 平成29年度予算

平成29年4月1日～平成30年3月31日

【収入の部】

費目	金額(円)	細目	金額(円)	備考
会費等	1,990,000	永久会費	1,200,000	60名
		一般会費	250,000	50名
		寄付金	420,000	70名
		広告掲載費	120,000	8件
第13回卒業50周年祝賀会・談話会会費	70,000			35名
平成29年度総会懇親会費	35,000			35名
前年度繰越金	21,684,201			
合計	23,779,201			
(実質収入 2,095,000)				

【支出の部】

費目	金額(円)	細目	金額(円)	備考
会報発行費	1,400,000			9800部(8700部発送)
平成29年度総会	221,000	講演料	30,000	
		講師交通費	15,000	
		役員交通費	41,000	3名
		懇親会費	135,000	
第13回卒業50周年祝賀会	140,000	飲食代	100,000	
		事務費	40,000	印刷・発送
卒業・修了祝賀会	310,000	飲食代	130,000	
		記念品代	180,000	
新規事業	250,000			
ホームページ管理費	200,000			
役員報酬	144,000		144,000	12名×12,000円
支部支援金	90,000	関東支部	60,000	平成29年度分
		関西支部	30,000	平成29年度分
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	22,000			
その他諸費用	75,000	交通費	26,000	学外理事理事会および支部総会出席
		談話会参加費	12,000	3名年2回
		課税納付	17,000	役員報酬・講演料・アルバイト代
		事務費	20,000	発送、コピー
余剰金	20,677,201			
合計	23,779,201			
(実質支出 3,102,000)				

平成29年度 同 窓 会 役 員

名誉会長	川北 一人 (研究科長・学部長)	会 計	山本 一清 (森林環境資源学)
会 長	安井 孝 (学外)		邊見 久 (生体高分子学)
副 会 長	福島 和彦 (森林化学)	名 簿	榎原 大悟 (農学国際教育協力研究センター・ 協力ネットワーク開発研究)
同窓会活性化特任	服部 束穂 (植物細胞機能学)	ホームページ	一柳 健司 (ゲノム・エピゲノムダイナミクス)
関東支部	石川 靖文 (学外)	会 報	佐々木康寿 (生物材料工学)
関西支部	加藤 壽郎 (学外)	会計監査	安立 昌篤 (生物有機化学)
総 務	中川 優 (生理活性物質化学)	事 務	宮田 久代 (生殖科学)
	水口智江可 (害虫制御学)		

関東支部だより

関東支部長 石川 靖文 (S56食 D)

関東支部では、昨平成29年12月2日(土)、東京神田神保町學士會館203号室で第20回総会を開催した。支部創立40周年の記念の総会でもあった。40年前といえば、「ピンク・レディー」がミリオンヒットを連発していた頃である。参加者は34名であった。

総会では、小職から支部現況について報告。次いで大学院生命農学研究科長・農学部長の川北一人先生(S60生化制御 D)に「名古屋大学と農学部・生命農学研究科の最近の動向」の報告を、支部相談役の朱宮正剛(S39畜)さんに「関東支部創立40周年に想うこと」の回顧を、そして株式会社ブルボン代表取締役 社長の吉田 康さん(S54農化)に「ブルボンと私、ブルボンのこれから」の講演を、それぞれしていただいた。

また上記とは別に、牧田雄介さん(S46林産)の「油絵」30点のスライド展示、田畑満生さん(S49畜 D)の「木彫ポートレート」3点の実物展示を行った。

「支部現況」では、支部運営の合理化・効率化・負荷分散のために事務局長制を提案、支部幹事の春日井治さん(S47農)の事務局長就任が承認された。

川北先生の「報告」では、現在の大学は、平成16年度の国立大学法人化によって大波に晒されており、大学運営も非常に困難に直面しているとの由。そのような中、松尾清一総長は、名古屋大学を世界屈指の研究大学にしようと MIRAI (Nagoya University Matsuo Initiatives for Reform, Autonomy and Innovation 2020) を掲げ頑張っておられるとのことであった。

農学部・生命農学研究科については、研究分野や研究室名、専攻の構成や名称を「学問分野の基本的区分」に対応させ、学生・受験生・社会一般が理解しやすい

編成にすべく、食・健康・環境の3分野を軸に改組、これに伴い「講座制」を廃し今年4月1日から「専攻制」に移行するとのことであった。また、中部東海の生命農学の拠点としての地域貢献、アジアや欧米の大学との国際共同事業・人材交流や Joint Degree Programなどを鋭意進めているとのことであった。

忘れてならないのが「名古屋大学農学部・生命農学研究科教育研究基金」の設置である。大学全体への寄附とは異なり、学部・研究科独自の裁量で使えるとのこと。詳細については、下記をご覧ください。

http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/support/doc/specific_agricultural.pdf

朱宮支部相談役の「回顧」では、配布資料の「総会開催記録」を手を、この40年間の思い出を語っていただいた。創立時の会員数は800余名、第9回総会が、講師の芦田 淳先生の急逝で、突如中止の已むなきに至ったこと、第18回総会で出会った「スポーツ吹矢」を健康法の一環として取り入れ現在も続けている一など、エピソードを交えて語っていただいた。

吉田社長の「講演」では、ブルボン社の創業以来の歴史と今後の展開について、単なる会社紹介に留まらず、例えば「人の幸福の基本は生活の安定。仕事があるのは有り難いこと。人員整理はしない。」「学労癒」一といった、同社の経営哲学などについてもお話しいただいた。総会后、「ブルボンの社長のお話、大変興味深いものでした。やはり素晴らしい経営者もいらっしゃるのですね。感動です。」「素晴らしいお話なので、講演資料を入手できませんか。」などのメールが寄せられた。ちなみに吉田社長の社長就任は40歳であったが、20世紀から21世紀に亘り日本の上場会社の社長を続けている数人のうちの1人との由。また社長業を退いた後は、研究の世界に戻りたいとのことであった。

この先のご精進をお祈りしたい。

一連の報告・回想・講演の後は、声楽コンクール入賞常連の森中定治さん (S47農) に、日本歌曲「はっか草」のテノール独唱を披露していただいた。次いで学生歌「若き我等」を参加者全員で斉唱した。

その後、川北先生、朱宮相談役、吉田社長を囲み全員で記念写真を撮影、一旦休憩の後、懇親会の運びとなったが、その前に學士會事務局会員企画課の池田隆太郎課長代理から「學士會」の案内をしていただいた。

懇親会では、木村健一さん (S36畜 M) の発声で、名古屋大学の吟醸酒「名大不老」で乾杯した後、歓談に入った。なお、吉田社長からは、ブルボン社「菓子6種詰め合わせ」と「こしひかり越後ビール」を参加者全員分いただいた。改めてお礼申し上げます。

次回第21回総会は、本年11月17日 (土) 13:30 ~ 17:30 學士會館203号室で開催の予定である。また別途、関東地域の新卒者の歓迎昼食会を5月26日 (土) 開催の予定である。多数のご参加をお待ちしている。
支部 HP 【URL】: <http://www.nua-alumkanto.net/>
支部連絡先 E-mail: alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

2018年の農学部同窓会関東支部の行事

1. 5月26日 (土) に新規卒業生の歓迎会を開催

昨年に続き関東支部では、3月に名大農学部および大学院を卒業し、関東地域に来られた方を対象に歓迎会を開催します。昼食会を兼ねた懇談会で新卒者の参加は無料です。

日 時: 5月26日 (土) 11:30 ~ 14:30

場 所: 學士會館

申込方法: 支部ホームページに掲載しております。

担 当: 関東支部事務局長 春日井 治

メールアドレス: hp-tanto@nua-alumkanto.net

支部ホームページ: <http://www.nua-alumkanto.net/index.html>

2. 11月17日 (土) に関東支部総会を學士會館で開催します

第21回関東支部総会を次のとおり開催します。

日 時: 11月17日 (土) 13:30 ~ 17:30

場 所: 學士會館203号室

内 容: 農学部の先生ならびに支部会員などから、研究や活動について講演をしていただきます。詳細は、支部ホームページに掲載してあります。

担 当: 関東支部長 石川 靖文

メールアドレス: alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

支部ホームページ: <http://www.nua-alumkanto.net/index.html>



名古屋大学農学部同窓会関西支部だより

関西支部長 加藤 壽郎 (昭45農 M)

関西地区では、2004年から、名古屋大学全学同窓会関西支部と農学部同窓会関西支部を立ち上げ、活動を行っております。全学同窓会関西支部は通常毎年5月に、また、農学部同窓会関西支部は毎年11月に、それぞれ総会を行って主な行事としております。今年度の全学同窓会関西支部の総会は、松尾総長、和田全学同窓会幹事並びに事務局のご参加のもと、5月20日に開催されました。恒例の記念講演では、工学部ご出身で、現在、三菱重工業 (株) の執行役員としてご活躍中の二村幸基さんに、種子島からのロケット打ち上げのお話を伺うことができました。二村さんは、種子島からのロケット打ちあげプロジェクトの推進役として活躍しておられ、製造に莫大な経費のかかるロケット打ち上げの最終的な判断を、天候、機器類の調子など様々な要因を考慮しながら判断するというプレッシャーの中で任務を果たされているとのこと。日本のロケット打ち上げ技術は、ここ最近、ずいぶん進歩してきたようで、先々、大変楽しみです。

一方、農学部同窓会関西支部の総会・懇親会は、11月11日に14名の同窓生の参加のもと、楽しく開催することができました。総会では、これまで明確にできなかった会の規約も決定でき、また、会の名称も「関西セコイア会」とすることで、より親しみやすいものとしたしました。総会議事のあと、例年通り、講演会を開催いたしました。今回は、香川大学名誉教授、早川茂先生から、最近注目を浴びてきた希少糖について、わかりやすくご説明いただきました。先生は、希少糖の入った製品をわざわざご持参いただき、サンプルとして皆さんにお配りいただきました。小生もサンプルを自宅に持ち帰って、家内に試食させたところ、大変

美味しいとびっくり致しておりました。希少糖のなかまは50種類ほどあるそうですが、その中でも、先生はブシコースを中心に研究開発を進めてこられたとのこと。この糖は、砂糖に比べて、カロリーが0.3%しかないのに、甘みは70%程度あるとのこと、驚きました。今のように肥満など過剰な糖の摂取で起こる様々な健康問題の解決に救世主となるかもしれません。希少糖の研究は、香川大学の早川先生のグループが中心となって、その有用性、安全性、製法などの研究開発をしてこられたのですが、その成果をみて、アメリカなどの外国でも製品開発が進み、販売に至っているとのことでした。日本での製造・販売はむしろ遅れてしまったようで、折角の日本の技術なのに大変残念な気がいたしました。ただ、今のところ、その製造に課題がありそうで、安価な製品として供給するまでに至っていないとのこと。今後の研究開発の発展に大いに期待したいものです。

例年通り、午前中は総会・講演会を行い、午後は3時間をかけて懇親会をいたしました。ご出席の方の全員から、それぞれ、近況をお話いただくのですが、毎回、大変楽しいものです。同窓生のみなさんは、卒業後、それぞれ全く違った人生をあゆみ、様々な経験を経て、今日に至っているのですが、お互いの知識や経験を交換し合いながら、明日からの人生にこの場で得たものを活かしていく、大げさに言えば、そんなことになることを期待して、この懇親会を続けております。是非、お一人でも多くの方にご参加いただき、この会を盛り上げていただきたいと思います。

さて、来年度の関西セコイア会は、平成30年11月10日（土）10：00～15：00を予定いたしております。ご講演は、京都府立大学の田中和博先生をお願いいたしております。会場は前年と同じ、大阪堂島の中央電気倶楽部を予約いたしました。初めてのご参加で、お知り合いのおられない方でも、同窓会の雰囲気自然に溶け込めるよう、場違いに感じられないように配慮しているつもりですので、どうぞお気軽にご参加ください。お待ちいたしております。次回総会の一か月前までには、案内のメールを送らせていただきますが、当方の不手際でうまく連絡が取れないこともありますので、下記事務局あて、問い合わせやご参加申し込みなど、いただけましたら幸いです。

(事務局連絡先) 寺前 朋浩

〒669-1103 西宮市生瀬東町37-23

e-mail : rikamoto@ares.eonet.ne.jp



名大遠州会だより

遠州会農学部幹事 佐々木 健（平成5年畜産）

名大遠州会は、静岡県西部（大井川以西）に居住または勤務する名古屋大学、大学院またはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、また総会は隔年で開催しています。本年は6月10日（土）に名古屋から松尾総長、伊藤全学同窓会副会長、和田代表幹事の来賓をお迎えし、会員約70名が出席して同窓会を開催しました。また、開催にあたり豊田章一郎全学同窓会会長より祝電を戴きました。

最初に、恒例となった出席者での写真撮影を行い、南方遠州会会長の挨拶の後、松尾総長がご自身で作成された配布資料を基に、松尾イニシアティブ NUMIRAI2010における教育・研究・国際化などの各テーマの進行状況や大学を取り巻く環境についてお話をされました。そして和田代表幹事からは自己紹介と全学同窓会の活動状況のお話があり、伊藤副会長からは同窓会サミットに関するお話がありました。

その後、大久保遠州会名誉会長の乾杯の発声で、懇親会を盛大に開催しました。懇親会では、浜松医科大学の管弦楽団4名の学生さんによる演奏もあり、老若男女が大いに盛り上がった和やかな進行となり、20時30分に終了となりました。

さて、本年は第12回総会と第23回同窓会懇親会をオークラクトシティホテル浜松にて、6月2日（土）18：00に開催予定です。案内状は例年通り4月頃に郵送しますので、奮っての御参加をよろしく願いいたします。

連絡先：遠州会農学部幹事 佐々木健

〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学 器官組織解剖学講座

Tel : 053-435-2293 Fax : 053-435-2290

Email : tsasaki@hama-med.ac.jp



農学部談話会便り

農学部談話会世話人代表 服部 重昭

農学部談話会は2002(平成14)年に、「農学部OB同志の親睦、現役の方々との交流を図るために気軽に歓談する機会を」との趣旨で、当時の名誉教授を中心にして設立されました。会員は農学部在籍した教員・職員および現役の農学部長・研究科長、並びに教職員が主ですが、この輪をさらに同窓生にも広げ、「農学部と親しむ会」として発展することを目指しています。この談話会は毎年3月と11月の第2週金曜日の夕刻に農学部隣接するグリーンサロン東山「花の木」において例会を、また6月には農学部同窓会と共催し、農学部・生命農学研究科の現状報告および講演を柱に開催しています。講演は「農学と社会」の視点に立ち、できるだけ適宜を得た話題を心がけています。本年の企画のうち、3月の第48回農学部談話会、次いで6月の農学部同窓会との共催による第49回農学部談話会については、以下のように計画しています。

同窓会諸氏および現役の皆様の積極的なご参加を募

り、農学部談話会を盛り上げていただくことを期待しています。

記

第48回農学部談話会

日時：平成30年3月9日(金)、午後5時～7時

場所：名古屋大学キャンパス内グリーンサロン東山
「花の木」

会費：夕食代を含め2,000円

農学部・生命農学研究科の近況：

川北一人 生命農学研究科長

講演：「高等植物の核外遺伝情報」

東京大学名誉教授 平井篤志 氏

第49回農学部談話会

(農学部同窓会主催による第14回農学部卒業・修了50周年記念祝賀会と共催)

日時：平成30年6月9日(土)、午前11時～午後2時

場所：名古屋大学農学部大会議室

会費：昼食代を含め2,000円

記念講演：「アジアにおける教育と研究の現状

—有機化学とその周辺—

名古屋大学名誉教授

磯部 稔 氏

農学部談話会についてのお問い合わせ等は世話人代表の服部重昭(E-mail: s-hattori@ouj.ac.jp)までお寄せください。

農学部の話題 —2017.01.01-2017.12.31—

(「名大トピックス」より抜粋)

- ・名大サイエンスカフェ「“藻類でバイオ燃料をつくるはなし”はどこまで進んだか」 2017.1.13毎日(朝刊)
小俣達男生命農学研究科教授が講演
- ・味な提言：1発酵食品って何？微生物の力 旨味を引き出す活動 名城大学農学部教授 2017.2.5中日(朝刊)
加藤雅士氏本学卒業生
- ・藤田祐一生命農学研究科教授は黄疸原因物質の生成解明について「今回のタンパク 2017.2.8西日本新聞
質反応は、通常は見られないユニークな反応。非常に価値の高い発見だ」と語る (朝刊)
- ・経済サプリ：女性関与の農業経営 利益率を引き上げへ 生源寺真一生命農学研究科教授 2017.2.11中部経済
- ・後藤寛貴生命農学研究科特任助教らの研究グループがクワガタムシの大顎を形作る 2017.2.18中日(朝刊)
遺伝子を特定

- 毒と薬 表裏一体 珍しい動物の持つ毒の研究に取り組む北 将樹生命農学研究科教授 2017.4.9日経 (朝刊)
は「植物や微生物などの毒の研究はやりつくされている」と語る
- 2017名古屋市長選 私の意見中：女性の力を引き出して 東村副理事・生命農学研究科教授 2017.4.5読売
- 第76回中日農業賞：審査委員長の生源寺眞一生命農学研究科教授は「受賞者の半数が新規参入で農業を始めた、各地域の先駆者。後に続く人の優れたモデルになる」と語る 2017.3.18中日 (朝刊)
- ハラスメント相談センター・男女共同参画室「働く女性のパワハラ防止妊活ハラスメントからマタハラ・育ハラまで」開催：10日 東村副理事・生命農学研究科教授がトークセッションに参加 2017.6.11朝日 (朝刊)
- 男女共同参画センター長に東村副理事・生命農学研究科教授を選出 2017.6.14中日 (朝刊)
- 野田口理孝生命農学研究科助教が立ち上げた本学発ベンチャー企業グランドグリーンが接ぎ木で新品種の開発に挑む 2017.8.10中日 (朝刊)
- 榊原 均生命農学研究科教授らはサイトカイニン輸送による植物成長促進制御の新たなしくみを発見 2017.9.4日刊工業
- あいち女性の活躍促進セミナー開催：4日 東村副理事・生命農学研究科教授が講演し「適材適所で人材を配置することが企業の利益にもつながる」と語る 2017.10.11中日 (朝刊)
- 後藤寛貴生命農学研究科特任助教らのグループは、なぜカブトムシの角は蛹で突然出現できるのかを解明した 2017.11.2毎日 (夕刊)
2017.11.3朝日 (朝刊)
- 毎日農業記録賞 優良賞：中川直之さん本学大学院生 2017.11.9毎日 (朝刊)

同総会寄付者一覧

(2017.2.1 ~ 2018.1.26)

本年度、農学部同総会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

青山 幸弘	旭 正	安藤 盟機	池田(酒井)みち子	石川 昭二
市原 茂幸	一政 祐輔	伊藤 憲一	井戸 大也	犬飼 武
岩槻 健	宇野 真人	梅田 吉道	大岩 仁志	大島洋次郎
大藤 雅章	岡田 鉦彦	岡田 昌和	奥村 純市	奥谷 冬穂
加藤 壽郎	蒲 正之	北野(中田)豊美	北野 英己	木村 恭文
栗本 重夫	小島 都史	小西紀久雄	小長谷圭志	小林 一清
Conroy(河野)信子	笹本 武志	佐藤 一精	佐藤 孝二	柴田 邦善
柴田とも乃	清水 大爾	清水 直貴	朱宮 正剛	新海 義秋
菅原 邦生	杉浦(磯村)克己	杉山 弘崇	瀬戸 達二	多賀 幸雄
高嶋 良樹	高橋 誠	竹内(鶴見)利江	舘本 勳武	俵 秀作
筒木(藤井)和美	筒木 潔	友松 篤信	中井 久郎	中垣 勝徳
中野 元	中野 正則	中村 義広	中山 晟	成瀬 和也
西村 弘行	丹羽 利夫	野間 順一	橋本 和彦	長谷川洋昭
長谷川靖彦	長谷川美典	長谷川(斉藤)義久	馬場 吾郎	早川 茂
坂 齋	坂野 大義	兵藤 宗郎	平野 忠美	平林 良一
福井 敏夫	藤田 和幸	松野 拓哉	松原 義勝	松本(金田)和子
水野 薫	水野 修一	水野(中村)智美	南 優希	目次 政之
森 博徳	山木 昭平	山下 興亜	山田 壽美	山本 義典
由比 進	渡辺 広次	全学学生会(農学部自治会)		

沖修司氏林野庁長官就任記念特別講演会 ならびに祝賀パーティー開催報告

沖修司氏（農学部林学科 S54年卒）の林野庁長官就任記念特別講演会が平成29年11月25日に農学部第3講義室において、農学部同窓会主催で開催されました。「林業・木材産業の成長産業化～豊富な森林資源を活かす～」と題した約1時間半のご講演のあと、レストラン花の木で祝賀パーティーが和気藹々とした雰囲気の中で行われました。森林行政のトップとしての熱い思いや誠実で温かい人柄が伝わり、全国より駆け付けた約100名の同窓生は大いに励まされ勇気づけられました。

今回は、昭和53年から55年卒の全同窓生、森林行政・木材産業に携わっておられる同窓生を中心にご案内させていただきましたが、たくさんの方にご参加いただき盛大に開催することができ、同窓会活動の活性化に繋がる企画であったと思っております。

本イベントの企画の段階から多大なご支援をいただきました森林生態生理学研究分野（沖長官の出身研究室）の皆様、ジョイフォレストクラブ（林産学科、生物材料科学講座の卒業生を中心に活動）の皆様方には、厚く御礼申し上げます。

これからは、同窓会の更なる活性化のために、総会やホームカミングデー以外の日でも、こうした取り組みを積極的に取り入れていきたいと思っています。皆様からの情報をお待ちしております。

（副会長 福島和彦）



全学同窓会便り

社会に開かれた大学として名古屋大学が発展していくためには、大学と同窓会の緊密な連携が必要とされており、大学と同窓会は連携して社会に一層の情報公開を行い、社会から種々のニーズを汲み上げる必要があります。また、同窓生にとって、専門分野を越えての情報交流は従来にも増して重要になってきました。こうした時代背景の中、全学的な見地に立って、部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供し、名古屋大学全体の種々の活動に関する情報を発信することを目的として、平成14年に全学同窓会組織が設立されました。現在、農学部同窓会からは3名が全学同窓会幹事として参画しています。

全学同窓会は、平成29年度、以下の活動を行いましたのでご報告いたします。

1) 社会貢献人材バンクの名簿整備

大学が運営する「卒業生等名簿管理システム」の整備と運営に協力し、部局同窓会に提供しました。

2) 財政基盤整備

同窓会カードの普及、およびカード優待店舗の開拓をおこないました。また、新入生の保護者に対し「活動協力金のお願い」を入学手続き時および入学式当日に配布し全学同窓会活動の支援のお願いしました。

3) 拠点形成

関東支部、遠州会、関西支部との連携・支援、新たな海外支部（スリランカ）の設立検討と各海外支部（韓国、バングラデシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、

カンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、台湾、ラオス、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、マレーシア）との連携強化を推進しました。

4) 全学同窓会活動の運営基盤整備

第1回「名古屋大学同窓会サミット」を平成29年6月3日に野依記念学術交流館で開催しました。また、12月5日に学士会と共催で、伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長による講演会を実施しました。

5) 学生支援

寄附講義「キャリア形成論」（卒業生が講師を務める全学教養科目）、「名古屋大学アフリカ学生会設立プロジェクト」等の学生活動、アカデミックガウン購入を支援しました。

6) 大学支援

名古屋大学基金活動を支援しました。また、ホームカミングデーを共催し支援しました。さらに、「2017年度秋季参加型競技プログラミング大会」、「就サポ presents 学生×卒業生交流会～これからのキャリアについて考えよう」等の大学事業を支援しました

7) 広報活動

Newsletter No. 28（平成29年10月）、No. 29（平成30年3月）等を発行しました。名古屋大学メールマガジンを利用して、全学同窓会および支部行事開催等の案内を発信しました。

名大農芸化学科第17回卒業同期会について

—平成29年12月2日に農学部施設見学を兼ねて同期会を開催—

大学の施設見学を兼ねて同期会を行ったところ、同窓会誌への掲載依頼がありました。有難く紹介させていただきます。

我々は昭和46年の卒業で、卒業生は41名でした。同期会は、2009年に発足しています。同期の大半が、還暦、退職と人生の大きな転換点を迎え、某製薬会社に勤務していた4人が発起人となって開催してくれました。参加者は13名。もっと早くから行っていればよかったとの声も聞かれる中、おおいに盛り上がり是非継続してやっていこうと名古屋在住のものが幹事となり、私がいつの間にか幹事長とされています。

卒業生名簿の整備に努め、毎年1回20名前後の参加を得て行っています。現況は、不幸にもすでに亡くなられた方4名、住所不明3名で、連絡をとれているのは34名です。内1回以上参加者が31名ですので、参加率としては良く、いい雰囲気の中で行っていると思っています。

昨年度は私が病気で開催できませんでしたので、今年度で8回目の開催です。大学の施設見学を兼ねて開催しようと、同期の中村研三元名大農学部教授に頼み、彼の後輩にあたる服部教授に案内してもらいました。私が名大に入学した年に、農学部は安城市から移転しており、周囲とは突出してきれいで立派な建物でした。卒業して47年、建物は昔のままで大いぶくたびれている感じでしたが、今では研究分野が複雑多岐にわたり、組織改編で農芸化学科の名称がなくなっているし、発展して理農館ができています。参加者それぞれ感慨深いものがあったと思います。写真1は、卒業時に農学部玄関前で卒業記念写真を撮っており、それに倣った集合写真です。檻の中にいるようで違和感があり、改めて卒業時の写真を見たら、鉄柵はなく手すりのみで開放的、手すりの外にはみ出し階段に座っている者もいた。なにより卒業の喜びと未来への夢が顔に出ているように感じました。見学参加者は21名、食事会のみ参加者2名、計23名で過去最高の参加者となりました。

食事会は大学構内のフランス料理店シェジローで開催。我々が学生の頃にはとても考えられなかった洒落た施設ですが、これも同期の福山透名大創薬科学研究科特任教授に手配してもらいました。彼は天然物全合成、有機合成化学の世界的権威で、2009年に中日文化

賞、紫綬褒章をもらっており、我々同期の誇りですので、あえて同窓会の皆様に紹介しておきたいと思います。

皆が古希を迎え、第2、第3の人生をのんびりと趣味や家庭菜園、農業や地域ボランティア活動で送っている中、まだ数人から現役でやっているとか大学等で研究や学生の指導、後進国の技術指導で忙しくしているとの近況報告があり、仲間のさらなる活躍を楽しみにしています。写真2は食事後の集合写真です。皆、話したいことがいっぱい終了予定時間を大幅に超えてしまい、途中退席者2名には申し訳なく思っています。余談ですが、丁度当日が私の誕生日で、誕生祝をしてもらいました。抗がん剤の副作用でICUに入り生死をさまよい、その後の手術でも皆に心配をかけていただけに大感激でした。

同期会を始めてから1名が亡くなっていますし、これから高齢化していく中で悲しい報告も出てくるでしょうが、私が元気な内は幹事長を続け、この素晴らしい仲間と近況を話し合い、遊びもできる場として、この同期会を続けていきたいと思っています。名大農学部同窓会の皆様のご健康とご活躍を祈念して、我々同期会の活動報告とさせていただきます。

(記：船橋隆夫)



写真1



写真2

各種高圧ガス及び設備の設計・施工
高圧ガス関連機器・各種実験機器



有限会社
アルファシステム

〒465-0013 名古屋市名東区社口1-1004
TEL. 052-776-4567 FAX. 052-776-4568
<http://www.alphasystem.biz>

コミュニケーションの進化に対応する



株式会社 KWIX
URL <http://www.kwix.co.jp/>

印刷を核に情報産業を担う企業として、
新時代のコミュニケーションの輪を
広げています。

■本 社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL (0566) 24-5511 / FAX (0566) 26-0200
■名古屋本部 〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町19-20
TEL (052) 871-9190 / FAX (052) 889-1410

全国同窓会名簿作製・同窓会アドバイザー

SALAT
Salat Corporation

株式会社 サラト <http://www.salat.co.jp/>

本 社 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel.079-284-1380 Fax.079-224-7746

竹本油脂の挑戦は
ごま油、そしてスペシャリティケミカルへ
食卓から宇宙までひろがっています



竹本油脂株式会社
TAKEMOTO OIL & FAT CO., LTD.

【本社・研究所】 愛知県蒲郡市
【事業内容】 特殊精密化学品(界面活性剤等)
ごま油の製造販売
【資本金/売上】 1億円/666億円(2016年)
【社員数】 584名(うち名大 生命農学出身者 35名)
【国内事業所】 東京 大阪 福岡
【海外拠点】 アメリカ 中国 台湾 インド

酒類、醤油、調味料、味噌、漬物、清涼飲料水の製造及び販売



盛田株式会社



【本社】〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄一丁目7番34号 電話番号 052-229-1600
<http://moritakk.com/>

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

アズワン	三洋電機
東京理化	タイテック
旭硝子	日本エイドー
久保田商事	アト
名古屋三立製作所	アドバンテック東洋

MZH

株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事一丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117
E-mail: mizuhorika@k2.dion.ne.jp



農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約9,500部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

個人情報の取り扱いについて

名古屋大学農学部同窓会では個人情報の正確で適切な管理に万全を期するため、会員データの管理を株式会社サラトへ委託しております。株式会社サラトは愛知県内約80校全国約1,500校の同窓会で会員データ管理を手がけ個人情報保護法に最も精通したプライバシーマーク取得企業です。なお、サラトは得られた個人情報を責任を持って厳重に管理し、個人情報を第三者に開示または提供しないことについて、名古屋大学農学部同窓会とサラトとの間で契約を取り交わしております。